

■ 建物の由来

明治17年(1884)9月、宇和島市広小路に「宇和島警察署」として建てられました。

市内の約70%が消失した戦災も免れた後、昭和28年(1953)2月、当時の南宇和郡西海町(現:愛南町)役場として、同町に移築され平成2年(1990)1月までその役目を果たしていました。庁舎が新築されるのを期に平成4年(1992)3月、市民の協力などにより宇和島市に里帰りをし、榑崎砲台跡そばに復元されました。

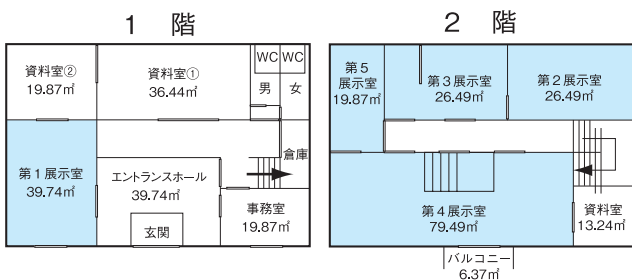
建築様式は、擬洋風建築に分類され、明治初期の文明開化の時代に、わが国の建築工匠たちが社会の要望にこたえるべく、西欧の技術を懸命に習得した頃のものであります。

復元に当たって調査の結果、小屋組みの合掌には隅合掌(すみがっしょう)や蕪束(かぶらづか)も見事にこなすなど、高度な水準の洋風技術の吸収が確認され、格調高い西洋風建築の外観とともに、建築史上でもきわめて注目に値するものであります。

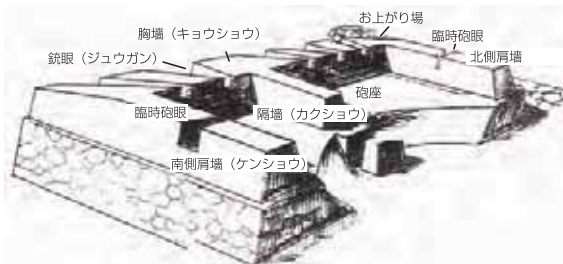
このような、擬洋風建築物については、西日本に少ないことから、当時の宇和島の先駆性を物語る歴史的価値の高い建物であるといえます。

平成8年(1996)12月3日には国内第1期(愛媛県では第1号)の登録有形文化財(登録番号38-0001)になりました。

■ 館内のご案内



■ 屋外施設 (榑崎砲台・安政2年築造)



■ 利用案内

● 開館時間

午前9時～午後5時

● 休館日

月曜日(祝日または振替休日の場合はその翌日)
年末年始(12月29日～1月3日)

● 入館料

無料

■ 交通案内



● 車をご利用の場合 (無料駐車場があります)

松山方面から: 宇和島道路朝日IC降りる
四万十方面から: 国道56号(宇和島道路坂下津IC降りる)経由

● 公共交通機関

JR宇和島駅→宇和島市内バス大浦・赤松行きで6分
バス停: 総合福祉センター前下車、徒歩4分または
住吉町下車、徒歩2分

登録有形文化財

宇和島市立

歴史資料館

～文明開化の象徴・擬洋風建築～



お問い合わせ先

宇和島市立歴史資料館

〒798-0003

愛媛県宇和島市住吉町2丁目4-36

【Tel】0895(23)2400

【E-mail】rekishi-m@city.uwajima.lg.jp



旧宇和島警察署

◆展示等について

華宵の部屋

「高島華宵」展

■ 高島 華宵 (たかばたけ かしょう)



明治21年(1888)北宇和郡宇和島裡町に生まれました。本名幸吉。挿絵画家。明治44年(1911)津村順天堂の中将湯の広告絵を描き、評判になります。その後、少年・少女雑誌の挿絵を手掛け、それ以外にも着物や洋服のデザインも手掛けました。その人気は「華宵好みの君が行く」と歌われたほどでした。昭和41年(1966)享年78歳で没。即日、勲五等双光旭日章を挿絵画家として初受賞。

「華宵の部屋」では、華宵作品を年4回展示替えを行い紹介しています。



展示室の貸し出しも出来ます(有料)

擬洋風建築

(明治初期に大工が西洋の建物に似せて建てた建築物)

歴史資料館屋根裏小屋組み「かぶら束」を中心に放射状に取りまとめられた合掌は、複雑な構造を形作ります。これは、当時珍しかった西洋建築の洋風トラス構造の再現です。



入口の装飾

1階玄関ポーチの落とし掛けのアーチ材の中央にキーストーン(に模したものを)設けています。これは石構造に用いる楔をアレンジして、木材で表現しています(創建当時のものを使用)。



当館は、木造寄せ棟造り二階建て423平方メートル。玄関は、ベジメント(三角切り妻屋根)を載せた張り出しポーチで、三角形に材を組み合わせたトラス構造や、西洋風の重厚な上げ下げ窓枠を用いるなど、当地方では先駆的な建築となります。

当館では、郷土資料等を展示、一般公開しています。



上げ下げ窓

左右の枠の中に銅を設けた「バランスウェイト」の上げ下げ窓を採用しており当時としては珍しい建物でした。

